

## 2023年1月1日主イエス命名の日・元旦礼拝

旧約聖書 出エジプト記 34 章 1-9 節

使徒書 ローマの信徒への手紙 1 章 1-7 節

福音書 ルカによる福音書 2 章 15-21 節

皆さま、新年明けましておめでとうございます。本年もどうぞよろしく願いいたします。

2023年は、1月1日が主日です。一年が主イエス命名の日から始まります。わたしたちの国では、1月1日という時の区切りは、元旦として宗教的な関心が一番深くなる時と言えます。またいろいろな事柄を改めて始めることを自覚する時とも言えます。しかし、本日の福音書の記述に、「**八日たって割礼の日を迎えたとき、幼子はイエスと名付けられた**」とあります通り、本日は、イエス様の誕生を祝う12月25日・降誕日から数えて、八日目に当たります。世界中の教会と一緒に、主イエス・キリストのご降誕を祝ったことと同じく、一年の始まりに、その方が「イエス」と名付けられたことを自覚する日です。それゆえ、本日は、このお名前から示される事柄を学びたいと思います。

「イエス」という名前は、わたしたちにとっては特別な名前といえます。しかし、それは称号のような名前ではありません。ヨシュアという、ユダヤ人の間では一般的な名前です。ただし、このヨシュア・イエスという名前には、「主は救い」という意味があります。

『聖書（旧約）』でもっとも有名なヨシュアは、モーセの後継者のヨシュアでしょう。彼のもともとの名前はホセア（ホシエア、「救い」という意味）でした。モーセが彼をヨシュア（「主は救い」という意味）と呼んだのです（民数 13:16）。モーセは、彼の名前を変えることを通して、彼が自分の後継者であることを明確にすると同時に、誰がイスラエルを導き救うのかを明確にしたのでしょ

う。イエス様は、このヨシュアの「主なる神が救いである」という非常に大切な意味を引き継いでいます。当然、その意味は、『聖書（旧約）』に描かれている事柄と同じです。その事柄とは何か、一言でいえば、主なる神様の愛です。そして、その愛は、本日の旧約日課、「出エジプト記」にも表れているのです。

時折、『聖書』の内容を概観して、『聖書（旧約）』を通して示される神様は少し怖い感じがするが、『聖書（新約）』でイエス様を通して示される神様は優しい感じがするといわれることがあります。確かに、『聖書（旧約）』には、少し恐ろしい物語もあります。しかし、『聖書（旧約）』を通して示される神様も優しさで満ちています。本日の箇所もその一つです。

本日の旧約日課は、「**主はモーセに言われた。「前と同じ石の板を二枚切りなさい。わたしは、あなたが砕いた、前の板に書かれていた言葉を、その板に記そう**」（出エ 34:1) から始まります。「前と同じ石の板」と言われているのは、32章19節に「宿営に近づくと、彼は若い雄牛の像と踊りを見た。モーセは激しく怒って、手に持っていた板を投げつけ、山のふもとで砕いた」とある通

り、モーセが、最初の十戒の板を壊してしまったからでした。原因は、モーセの帰りが遅いために、イスラエルの人々が若い雄牛の像を作って、それを神様とあがめたからです。不安になりすぐに自分たちで神の像を作ってしまうイスラエルの人々もひどいと思いますが、それを見て怒ったとはいえ、十戒の板を砕くモーセもどうかと思ってしまう。主なる神様は当然怒ります。しかし、モーセのとりなしを通して、イスラエルを許し、改めて導くのです。そしてもう一度、十戒の板を与えるのです(十戒の板を壊したモーセは特に責任を問われていないようです)。そして、イスラエルの信じるべき方が、誰であるかを改めて宣言したのが、本日の箇所なのです。

5節に「主は雲のうちにあつて降り、モーセと共にそこに立ち、主の御名を宣言された。主は彼の前を通り過ぎて宣言された」とあります。わたしたちがいつも祈る「主の祈り」の中に、「み名が聖とされますように」とありますが、まさに趣旨と同じく、その名が特別であること・「聖」であることが宣言されるのです。そして、その主が「聖」であることの意味が続きます。ここでは「主、主、憐れみ深く恵みに富む神、忍耐強く、慈しみとまことに満ち、幾千代にも及ぶ慈しみを守り、罪と背きと過ちを赦す。しかし罰すべき者を罰せずにはおかず、父祖の罪を、子、孫に三代、四代までも問う者」(出エ 34 : 6-7) とあり、主なる神様が愛に満ちた方であることが、世代の対比によって示されるのです。

しかし、イエス様の時代、この後半部分のみの解釈が有名になり、因果応報的な理解の根拠となっていました。「ヨハネによる福音書」の中で、「弟子たちがイエスに尋ねた。『ラビ、この人が生まれつき目が見えないのは、だれが罪を犯したからですか。本人ですか。それとも、両親ですか。』』という疑問を提示するような現象を生んでしまいました。しかし、本来の趣旨は異なります。

「憐れみ深く恵みに富む神、忍耐強く、慈しみとまことに満ち、幾千代にも及ぶ慈しみを守り、罪と背きと過ちを赦す」方、これが、わたしたちが信じている主なる神様です。

「出エジプト記」の物語が示す通り、主なる神様はただイスラエルを甘やかし、許す方ではありません。その罪を無視することはないのです。しかし、主なる神様の本当のご意思は、怒ることではなく、イスラエルを守り導くことです。それは、「恵み」と「裁き」の年数の差で明らかです。千倍もの違いがあります。イエス様を通してわたしたちに示される恵みは、千倍をも超えています。永遠であるからです。それがわたしたちの信じているイエス様です。

2023年、新しい年が始まっても、各地で争いが続き、コロナ禍も収まっていません。また、そのほかどのようなことが起こるのか、わたしたちにはわかりません。しかし、イエス様を、今年一年もご一緒に信じながら、歩みたいと思います。そして、わたしたちの東京聖三一教会の働きがより豊かになるように努めたいと思います。わたしたちのその歩みは、まことの平和に必ずつながるからです。